

Q11 児童の表現活動にはどのようなものがあるのでしょうか。



児童が表現する活動としては、発表したり書いたりすることのほかに、児童に特定の役割を与えて即興的に演技する役割演技の工夫、動きや言葉を模倣して理解を深める動作化の工夫、音楽・所作・その場に応じた身のこなし、表情などで自分の考えを表現する工夫などがあります。



役割演技を授業の工夫で取り入れたいのですが、気をつけるポイントは？

登場人物の動作をそのまま体験することで、心情理解や場面理解を深める方法です。動作を表す言葉を手がかりに模倣して体験します。

★教科書に書かれているとおりに、実際に動いてみる。

役割演技

動作化

児童が特定の役割をもって、即興的、創造的に演技をすることを通して、ねらいとする道徳的価値について考えを深める方法です。

★場面を設定し、人物の台詞を考えて、動作を交えて演技をする。

★役割を交替する。交替することで相手の立場を考えられるようにする。

(教材の内容によっては役割を交替しない場合もあります。)

*役割演技のときに、効果音（雨の音など）を入れるなどすると場面理解の手立てになります。

何を考えさせたいのか、何のために動作化、役割演技をするのかを教師が明確にしておくことが大事です。



役割演技で考えを深めるためのポイント

- 登場人物が置かれている状況や場面設定をしっかりと行う。
- 全員に体験させたいけれど時間がかかるので、見ている子どもたちに視点を与えたり、感想を求めることを伝えておいたりすることで全員が参加できる手立てをとる。(ペアやグループで行うなどの工夫も)
- 教師が最初に演じることで、何を考えるかを示すことができる。役割の一方を教師が演じることで、より実感が得られる場合もある。
- お面やネームカードなど役になりきれ小道具や音響などを取り入れると効果的。



*詳しくは、Q15の「道徳的行為に関する体験的学習」のページをご覧ください